

国際化学肥料ニュース (2012年7月)

肥料業界の2012年7月動態

* アメリカ肥料研究所 (TFI) の最新統計データによれば、5月北米の塩化加里在庫量が大幅に増加した。5月31日現在北米の塩化加里在庫量306万トン、4月末より11.3万トン増、昨年同期より52%、最近5年間の平均値より42%増。在庫量増加の影響で、カナダ Potash Corp 社はアメリカ国内に対して塩化加里の価格を20ドル/トン値下げした。

* IFA の窒素肥料に関する最新調査報告によると、2011～2016年世界の窒素肥料生産量が持続的に増加するが、需要量が横ばいに保つと予測する。

2011年の窒素肥料生産量1.23億トン(純N換算、以下同)、2016年に1.62億トンに増加する。2016年の窒素肥料の生産設備稼働率が83～85%。特に新たに増加する窒素肥料の生産能力の83%が尿素である。2011～2016年に約60の新規尿素生産設備が竣工し、生産開始し、その中18ヶ所が中国にある。新増加の尿素生産能力が4400万トンに達し、世界の尿素生産量が2011年の1.60億トン(実物)から2016年の1.95億トンに増加する見込み。

一方、窒素肥料の需要量が2011～2016年に年間1.7%増加し、2016年に1.456億トン(純N換算)に達する。なお、2016年に尿素的需要量が1.76億トン(実物)、その内訳は農業用尿素1.54億トン、工業用尿素2170万トンと予測。

実際に、尿素を中心とする窒素肥料は生産国内での消費が大半で、国際市場に出す数量がそんなに多くない。2011年世界の尿素貿易量は3900万トンであるが、2016年に4600～5300万トンに増加する。有力な尿素輸出元の中国では尿素輸出が政府の強力な管理下に置かれるため、2010年の世界輸出シェアの17%から2011年に9%以下に減少し、2016年も10%以下になると予測する。従って、2012年に窒素肥料の需給関係がやや緊張で、2013～2014年に平衡を保ち、2015～2016年に約8～10%供給過剰となる。なお、具体的な過剰量が大量需要国のインドの尿素生産量と需要量に強く影響される。

* カナダ Potash Corp 社は2012年第2四半期の肥料市場分析報告を公表した。その要約は下記の通りである。

加里肥料については、アジアと南米の旺盛な需要に支え、過去10年に加里肥料の消費量が年3%の率で大幅に増加した。2011年下半年から主要消費国の中国とインドの

輸入量が減ったが、2012年第2四半期から輸入量が再び増える傾向が見える。2012年の加里肥料販売量が5300～5600万トンに達すると見ている。

りん酸肥料については、過去5年間、りん鉱石、硫黄、アンモニアの市場価格が大幅に上昇し、特にりん鉱石の価格が約2倍も上昇した。これら原料価格の上昇により、りん酸肥料(MAP, DAP)の生産コストが約30%上昇した。2012年はりん酸肥料の需要が旺盛で、供給が追いつかない可能性があるが、2012年末にサウジアラビアのMa'aden DAP工場が完成により、新たに最大290万トン/年のDAPが生産する。また、モロッコ OCPも2013年にりん酸生産量を増加する予定。中国もりん酸肥料の増産に力を入れている。2011年世界のりん酸肥料需要量が4%増加し、2012年も3%の増加が見込まれている。主要な消費国はブラジル、中国、アメリカ。この数年間、インドのりん酸肥料消費量が急増した。但し、インド政府の肥料補助金の調整で、2012年インドのりん酸肥料消費量が2011年と同じと推測される。中国では政府の厳しい輸出管理により、2012年のりん酸肥料輸出量が2011年より100万トン減の400万トンとなるだろう。

窒素肥料については、2012年はアンモニアの需給関係が均衡のバランスを保つだろう。世界のアンモニア貿易の特徴は南米→北米、中東→アジア、旧ソ連地域→EUの3つのルートがあり、特にトリニダード・トバゴからアメリカに445万トンの輸出を筆頭に、南米から北米に輸出量が470万トンに達し、世界アンモニア貿易量の約25%を占める。尿素については、2011年に一部の施設尿素生産装置の完成が遅れ、世界市場に供給量が不足の事態が発生した。2012年に約260万トンの施設生産能力が市場に投入し、尿素の不足感を解消するだろう。また、2012年末から、コスト優勢地域から800万トン尿素が国際市場に流入し、供給過剰の可能性もある。2013年以降、アルジェリア、イラン、カタールと北アフリカ地域にあるいくつかの施設尿素工場が生産開始、輸出量が大幅増えると推測される。一方、尿素の国際貿易量は2011年が4100万トン、2010年と同水準。中東と旧ソ連地域からの輸出量がそれぞれ1230万トンと780万トン、北アフリカからの輸出量が390万トン、中国からの輸出量が356万トンに留まった。2012年の尿素国際貿易量もほぼ同量と推測される。

- * 国際尿素価格が下落。パキスタン TCP社が6月27日に締め切りの20万トン尿素入札結果が公表され、受注者はアメリカの Transammonia社で、CFR411.77ドル/トンであった。このニュースに反応して、国際市場の尿素価格が20～30ドル/トン値下げになった。7月にウクライナの尿素 FOB365～375ドル/トン、5月の高値より200ド

ル近く安くなった。中国も 8 月価格がプリル尿素 FOB385 ドル/トン、大粒（グラニュー）尿素 FOB400 ドル/トンと供給側から提示された。現在、インドは 70～100 万トンの入札を行い、希望価格が CFR400 ドル/トンであると伝えられた。これから第 3 四半期に入っても国際市場での尿素供給が潤沢で、値上げ要因が見当たらない。特に欧州の金融危機で生産コストの高いヨーロッパメーカーが減産していて、市況の回復を待つ。

* 中東湾岸石油化学工業協会（GPCA）の事務局長 Dr. Abudulwahab Al Sadoun は、2016 年に湾岸地域の化学肥料生産量が昨年の 2100 万トンから 3200 万トンに増加し、年間平均成長率 7.5%、2016 年の尿素とりん酸肥料の輸出量は国際化学肥料市場シェアの 36%と 24%を占めるだろうと発表した。

* インド Tata 化学工業の CFO P.K.Ghose は、ルビー安の関係で、今年インドの化学肥料産業が大きなダメージを受けるだろうと述べた。現在インド国内で生産できるのは尿素 2200 万トン、りん安 400 万トン、化成肥料 800 万トンしかなく、不足分は輸入に依存する。この一年間でインドルビーが米ドルに対して、為替レート約 25%安くなり、輸入に依存している尿素とりん安の輸入コストが大幅に上昇した。2011～2012 年度にインドが尿素 770 万トン、DAP690 万トン、塩化加里 398 万トン、化成肥料 367 万トンを輸入する見込みであったが、輸入コストの上昇で、国内のりん安と塩化加里需要量が 15%と 20%減少するだろうと Tata 化学が推測する。

インドは中国に次ぐ第 2 の化学肥料使用国。2011～2012 年度にインドの化学肥料使用量が 5800 万トンであったが、2016～2017 年度に 6900 万トンに達すると予測。インドは国内生産を強化する一方、積極的に外国に進出して、尿素、りん安、塩化加里を外国で生産し、優先的に輸入する手法を取っている。

現在、インドの尿素輸入は政府管理下に置かれ、MMTC, STC, IPL の 3 社が窓口となり、尿素輸入を代行する。インドの尿素購買方式が 2 種類で、一つは入札、もう一つは外国供給元と長期契約の形で行う。2011～2012 年度に尿素輸入量 783 万トン、主にオマーン、イラン、中国、ロシアから、特にオマーンからの輸入が全輸入量の 30.63%であった。国内尿素価格は国の補助金制度で、ほとんど固定されている。5 年前に 4830 ルビー/トンから今年の 5310 ルビー/トンに微増するだけで、米ドルで換算すると、逆に安く

なった。ただし、政府の負担が大きいため、補助金制度を改革すべき世論が高くなっている。

- * ヨーロッパの窒素肥料需要量が次第に減っている。IFA のデータによれば、2009～2010 年度の EU 全体の窒素肥料需要量が 1030 万トン、その内訳はフランス 210 万トン、ドイツ 160 万トン、ポーランドとイギリスがそれぞれ 100 万トン。EU 諸国の窒素肥料が尿素主体ではなく、硝酸態窒素が主流である。例えば、フランスは窒素肥料中に硝安が 33%、尿素硝安溶液が 28%、尿素 13%。ドイツは硝安石灰が 45%、化成肥料 34%、尿素 6%。ポーランドは硝安 36%、尿素 30%。

EU 域内の化学肥料貿易が盛んで、2010 年 EU の窒素肥料輸出力 567.7 万トン、その内訳はアンモニア 111.5 万トン、硝安石灰 182.8 万トン、尿素 125.6 万トン、輸入量 907.2 万トン、その内訳はアンモニア 324.7 万トン、尿素 268.7 万トン、硝安石灰 192.4 万トン。過去 20 年、EU の窒素肥料使用量がゆっくり減少している。原料コストと環境規制等により、EU の窒素肥料生産量がそれ以上に減少している。近年、EU は環境保護の動きが活発で、アンモニア合成と硝酸合成に炭素税がかかる可能性が高い。この場合はアンモニア生産コストが 10 ユーロ/トン増加し、大部分の化学肥料メーカーが工場閉鎖になる可能性が大きい。

- * ロシア PhosAgro 社は 2012 年にりん鉱山の開発と生産に 69 億ドルを投資する計画。PhosAgro 社はロシア最大のりん酸肥料メーカー JSC Apatit 社の株式 57.57% を持ち、さらに 20% の株式を追加取得する予定。
- * Minbos 社はアフリカのアンゴラ Canbinda 州にある Cacata りん鉱山の開発可能性調査報告を公表した。当該りん鉱山は海岸より 50km の内陸にあり、りん含有量が高く、採掘と輸送が容易で、10 年間に 80 万トン/年のりん鉱石採掘が可能であると評価される。なお、鉱山の価値が 7.46 億ドルと試算した。
- * カナダ Eagle Star 社は所有のブラジル Canabrava りん鉱山の開発区域を 17509 ヘクタールから 40678 ヘクタールに拡大した。起因が当該地域に厚さ 7m、総延長 13km 超のりん鉱脈が新たに発見された。また、該社がブラジル中部にある Bomfim りん鉱山を買収した。10 月から採掘開始、16 月をかけて開発の準備を行う。

- * ベトナム新聞の報道により、金鷄尿素工場（1月末完成）と寧平尿素工場（7月完成）の完成により、尿素の生産量が大きく増えた。今年上半期窒素肥料生産量 73.4 万トン、去年同期より 59.7%増、化成肥料生産量 88.6 万トン、りん酸肥料 91.9 万トン（DAP12.9 万トン）。今年下半期国内の尿素がほぼ自給自足となる。
- * 7月11日、Canpotex は日本との間に 2012 年下半期の塩化加里輸入契約を締結したと発表した。CFR 価格は 550 ドル/トンで、去年同期より 20~25 ドル値上げ、今年上半期の契約価格と同様である。一方、7月中旬に Canpotex は東南アジア（タイ、ベトナム、フィリッピン）の輸入業者との間に 7 万トンの塩化加里契約を締結した。普通塩化加里 CFR510 ドル/トン、大粒塩化加里 535 ドル/トンであった。そのほか、東南アジアの輸入業者に CFR505 ドル/トンの価格で交渉中。一方、ドイツ K+S は 7月にブラジルに CFR535 ドル/トンの価格で 15 万トン大粒塩化加里を輸出する契約をした。南アフリカに CFR407 ユーロ/トン、ヨーロッパ地域内では CFR350~360 ユーロ/トンで販売している。また、中国とインドは上半期と同様の CFR470 ドル/トンの価格で BPC および Canpotex と交渉中である。
- * ベラルーシ BPC は来年中に本社をベラルーシからスイスに移転し、会社名を Soyuzkali に変更すると発表した。BPC はベラルーシの Belaruskali 社とロシアの Ulalkali 社が共同で設立した加里肥料輸出専門会社で、それぞれ 50%ずつの株式を所有する。本社移転の理由は厳しい輸出競争に有利な場所と条件を揃えるためである。2011 年、BPC が輸出した加里肥料が世界加里肥料輸出量の約 40%を占める。
- * ANDA 発表のデータによれば、ブラジル 5 月の尿素輸入量が 9.1 万トン、去年同期より 50%減。今年 1~5 月尿素輸入量が 66 万トン、去年同期より 32%減。

大手各社の営業業績

- * 7月17日、アメリカ Mosaic 社が 2012 年度（2011 年 6 月~2012 年 5 月）の営業業績を公表した。売上高が前年度より 12%増の 111.1 億ドル、純利益が逆に 23%減の 19.3 億ドル、1 株当たりの純利益が 4.42 ドル。第 4 四半期はりん酸肥料価格の下落と工場生産停止の影響で、売上高 28.2 億ドル、純利益 5.07 億ドル、振るわなかった。2013 年度第 1 四半期（2012 年 6~8 月）の予測では、加里肥料販売量 180~220 万トン、DAP 販売量 250~280 万トン、前期より増える。

- * 7月18日、ノルウェーYara社は2012年第2四半期の業績を公表した。化学肥料、特に尿素の販売量が増加したことにより、営業業績が向上した。売上高214億ノルウェー・クローネ、粗利52億クローネ、純利益28億クローネであった。

肥料プラント新規建設

- * インドネシア KNI 社は Kalimantan 州東部に建設中の硝安工場を完成した。当該工場は東南アジア最大の硝安工場で、生産能力30万トン/年、正常生産後、インドネシアの硝安輸入量が40%減らすことができる。当該工場はインドネシア Armino 社が51%、オーストラリア Orica 社が49%の株式を持ち、投資金額4.5億ドル、ドイツ Udhe 社が設計と技術サポートを提供する。インドネシアは昨年約51.8万トン硝安を輸入した。

その他

- * オーストラリア Elemental Minerals 社はアフリカのコンゴ共和国にある Sintoukola 加里鋇山の開発に協力者を募集している。Sintoukola 加里鋇山は加里鋇石の埋蔵量4.42億トン、KCl 平均含有量30.8%、Elemental 社は当該鋇山の93%株式を所有する。
- * ロシア Acron 社は政府に JSC Apatit の民営化に伴う20%株式売出の入札条件を修正するよう要望した。JSC Apatit はロシア最大のりん鋇石メーカー、4つのりん鋇山と2つの選鋇場を有し、2011年のりん鋇石販売量が410万トンに達した。ロシア政府は2012年に国営企業の JSC Apatit を民営化する予定で、その20%株式を売り出す。Acron 社は使用するりん鋇石の大半は JSC Apatit から購入しているが、今年5月、JSC Apatit が Acron 社へのりん鋇石納入を一時中断して、Acron 社の3本化成肥料生産ラインが停止させられ、大損失を受けた。また、4月に JSC Apatit が一方的にりん鋇石の価格を100%値上げした。従って、Acron 社はどうしても JSC Apatit の株式を入手し、りん鋇石の安定供給を確保したい。一方、競争相手の PhosAgro と Ulal Chemical 社も政府に JSC Apatit の民営化に関する透明性と独占禁止強化を要請した。
- * カナダの Pacific Potash 社は同国の Westem Potash 社からブラジルにある加里鋇山の権利を購入する。Westem Potash 社の株主である Moonraker はすでに所有の497.5万株式を Pacific Potash 社に売却することを同意したようである。今回の株式買収が成

功すれば、Pacific Potash社はWestem Potash社のブラジルにある資産の80%を取得、MoonrakerもPacific Potash社の100%子会社になる。

- * カナダの投資会社 Augen 社は同国の Nexxt 社を買収する。Nexxt 社は加里の開発専門会社で、すでに Saskatchewan 州に 1ヶ所の加里鉱山を取得した。買収完了後、Nexxt 社は Gensource に名前を変更し、Augen の 100%子会社となる。
- * 7月、インド政府はアフリカのガーナに工業大臣等の政府代表団を派遣し、両国共同でガーナにアンモニアと尿素工場を建設することについて商談した。当該肥料工場がガーナ北西部の Shama 地区に建設予定。2010年、インドの国営企業 RCF がガーナ政府に当該肥料工場の建設を提案し、生産能力が尿素 100万トン/年、総投資額 10億ドル、RCF 社が 51%株式を所有する。当該項目が原料の天然ガス供給問題で始動していない。今回政府代表団派遣の目的はガーナ政府に当該項目に廉価の天然ガスを安定供給する約束を得ることである。
- * カナダ Inspiration 社は Dragon 社の 20%株式を取得した。Dragon 社はチリの Salar de Liamara 地域で加里とその他の鉱産物を探鉱している。また、Inspiration 社はさらに Dragon 社の株式を最大 50%まで買い増しする権利を有する。
- * アメリカ第 7 巡回裁判所が加里肥料の独占禁止裁判を再開した。当該独占禁止裁判は 2008年に Minn 社が提訴し、カナダ Agrium、ベラルーシ Belaruskali、IPC、アメリカ Mosaic、カナダ Potash Corp、ロシア Silvinit と Uralkali の 7社を被告として、アメリカの加里肥料価格をコントロールすることにより、消費者に損害を与えるとのことである。当該提訴が一度却下されたが、最近、アメリカ第 7 巡回裁判所が原告の提訴理由を認め、連邦裁判所への上訴を支持する決定した。当該決定が発表した後、カナダ Potash Corp 社がすぐに声明を発表し、会社業務に独占禁止法やその他の法律を順守しており、訴状に書いている違法行為を全くしていないと強調した。ほかの加里肥料会社がまだ態度を表明していない。
- * 7月 17日、ベラルーシ大統領が政府がベラルーシ Belaruskali の持ち株権を手放さないと表明した。大統領はベラルーシの国営企業民営化計画では、Belaruskali の 25%株式までは民間投資家に売却することができるが、Belaruskali の資産価値が 300~320億ドル、売り出す株式数は 25%を超えることがないと述べた。Belaruskali は加里肥料生産量の世界シェア 16%、その 90%が輸出に供する。

- * 日本の伊藤忠がマレーシア肥料メーカーAgurmeto 社の 25%株式を買収し、買収額約 50 億円。Agurmeto 社はパーム椰子と水稲の肥料を中心に、昨年 130 万トン肥料を販売した。伊藤忠は将来 Agurmeto 社の生産する肥料をフィリピン、タイ、インドネシア、ラオス、カンボジア等に輸出する計画。